

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷●京丹波

広報 | 京丹波

NO.121
2015年11月17日発行
11月号

まちと共に歩む子らの歌声が響くとき
次の10年への第一歩が始まる





式辞を述べる寺尾町長



今月の表紙

京丹波町合併10周年記念式典を和知ふれあいセンターで開催。記念すべき日を祝うとともに、次の10年に向けた新たな一歩を踏み出しました。

10周年の節目を祝い、記念式典開催



ピアノ演奏を披露する辻本さん



竹野小児童による合唱



町内小学4年生の合唱

が、合併後に乗り越えなければならない課題も多くありました。十年間の歩みを振り返り、同じ時間を共有できることに深い感慨を覚え、喜びを感じています」と述べ、さらにこれからのまちづくりについて「京丹波町の光輝く未来に向け、発展のための基盤は着実に整いつつあります。皆さんの町を愛する気持ちを結集し、新しい歴史を共に築いていきたい」とまちづくりへの思いを込め式辞を述べました。

また、第一部の式典終了後には、第二部として記念公演を開催。町内在住のピアニスト辻本菜々絵さんがピアノ演奏を披露した後、竹野小児童と、町が誕生した平成十七年度に生まれた町内小学校四年生が、辻本さんの伴奏で合唱しました。公演の最後には、児童と会場全員で童謡「紅葉」を合唱しました。



受賞者をはじめ約400人の出席者

平成二十七年十月十一日。旧三町が歩みを共にして十周年を迎えました。

町では、この節目となる日を記念して式典を開催しました。

和知ふれあいセンターで開催した合併十周年記念式典には、町民や関係者など約四百人が参加しました。

第一部の式典は、合併十周年を記念して制作した映像「未来へつなぐメッセージ」で開式。京丹波町の自治に貢献した人やさまざまな分野で功績を残した人、他の模範となる善行を行った人などを表彰しました。

式典で寺尾豊爾町長は、合併からこれまでの町の歩みについて「生活や文化に共通する面が多い三町の合併だった



10周年を祝い万歳三唱

No.121 CONTENTS

- 2 10周年の節目を祝い 記念式典開催
- 6 [特集] 町長と語るつどい
- 12 食の郷がにぎわう 京丹波 食の祭典2015
- 14 京丹波に「冬ほたる」が舞う
- 16 Dr's Message いきいき健康術
- 17 **FLASH** KYOTAMBA TOWN NEWS 2015

安全で快適な交通社会へ
—交通安全ポスターコンクール表彰式

交通事故撲滅を目指す
—南丹船井交通安全大会

丹波くりでにぎわう
—京都丹波くりまつり

楽しいひとときを過ごす
—わちふれあい祭り

体験して学ぶ
—筋トレ・脳トレ教室サポーター養成講座

地域の玄関口を清掃
—ボランティア・ロード丹波

犯罪のないまちへ
—京丹波安全・安心まちづくり協議会

町への思いを形に
—二宮金次郎像除幕式

戦争のない社会を誓う
—戦没者追悼式

秋晴れのもと稲刈り
—あっぱれたんぼ稲刈りイベント



おめでとうございます

十月十一日に開催した記念式典では、京丹波町の自治に貢献した人や、さまざまな分野で功績のあった次の個人・団体を表彰しました。
(順不同、敬称略)

自治功労者 表彰

四年以上町長の職にあった方
松原 茂樹

本町の自治及び公益に関し、特に功労が顕著である方

・上田 秀男

功績者 表彰

自治振興に特に功績のあった方

・佐藤 秀一郎
・田畑 美さ子
・波瀬 孝澄
・竹野活性化委員会
・桧山地域振興会
・梅田地域振興会
・三ノ宮地域振興会

善行者 表彰

善行が著しく町民の模範となる方

・坂本 博
・塩田 喜一
・竹内 繁夫
・竹内 文子
・田中 強
・谷山 和子
・野原 泰見
・野間 幸栄
・藤田 壽代
・前田 正
・横山 均
・若松 孝子
・京丹波町食生活改善推進員協議会

教育、文化又はスポーツの振興に特に功績のあった方

・太田 明平
・奥田 健次
・中野 昭
・尾長野区
・丹波八坂太鼓保存会
・丹波ひかり小学校学校運営協議会
・瑞穂太鼓
・和知民芸保存会

その他町の発展に功績のあった方

・上田 次雄
・和知駅前活性化委員会
・京丹波町国際交流協会

・京丹波町質美地域振興会
・京丹波町北部振興会
・上和知中部村おこし委員会
・わち西部元気づくり委員会
・NPO法人 丹波みらい研究会
・農林業及び商工観光など産業振興に特に功績のあった方

・太田 嘉昌
・軽尾 一雄
・小林 静子
・細井 百合子
・山内 善継

社会福祉の増進又は保健衛生の推進に特に功績のあった方

・荒井 しづ江
・石田 美恵
・一谷 静夫
・岩崎 均
・岡本 均
・片岡 良一
・片山 勝紀
・小松 静子

・山崎 佐智代
・山内 スミエ
・溝口 操
・細井 あさの
・西田 定男
・田中 嘉則
・立野 道子
・嶋田 正市
・梅原 士朗

・京丹波町女性の会 瑞穂支部
・社会福祉法人 桜梅会
・南丹地区更生保護女性会
・京丹波支部 瑞穂ブロック
・桧山寿会
・京丹波町建設業協会

町の公益のため多額の私財を寄附した方
・片山 山治

特集

町長と語るつどい

町民の皆さんと寺尾町長が、まちの課題や将来について語り合う取り組み「町長と語るつどい」。今年は六月十八日―八月十一日まで開催し、五百八十七人の方々に参加いただきました。

つどいでは、平成二十七年予算と主要事業について映像を使って報告・説明した後、町政に対する率直なご意見をいただくなど、まちづくりについて語り合いました。

懇談の場でお出されたご意見やご質問など、主なものをお伝えします。

税・行財政について

問 町の借金の残高はいくらありますか。

答 平成二十五年度末で普通会計地方債残高は、一四二億八、四〇〇万円、平成十八年度末には一七六億五、一〇〇万円でしたので、大幅に減少しています。自転車操業的な借金の仕組みではなく、事業ごとに有利な財源を活用しています。

問 年間に利息をどれくらい払っていますか。

答 平成二十七年の公債費十四億四、五〇〇万円のうち、利子相当分は一億七、二八〇万円です。

問 自治体の財政状況は厳しいと思いますが、どのような認識を持っていますか。また、将来に向けた町の財政対策はどのようなものですか。

答 地方公共団体で緊縮財政を行うと、縮小再生産が発生すると考えています。地方公共団体の財政運営では、百円の収入で百円の消費を行う社会が必要であると考えていることから、町民の生活をしつかりと支える予算の使い方をしていきます。

防災について

問 新規事業で防災行政無線整備事業（約四億一千万円）の詳細はどのようなものですか。

問 防災無線は全ての集落に電波は届くのですか。

答 百パーセントは難しいですが、簡易中継局を活用して対応していきます。

問 安心安全のまちづくりの中で、停電のときにケーブルテレビが使えないので、通信について考えてもらえませんか。

答 災害時には、ケーブルテレビで伝え、最終は消防団に個別対応いただくようお願いしています。防災行政無線を整備しますが、各家庭に対しての最終的な避難誘導は、消防団や職員で対応します。停電については、危機管理の取り扱いに組み入れていきたいと思っています。

問 消防団の女性団員入団について、今年一人の入団があったと聞きうれしく思っています。人員確保は難しいが、今の時代に合った活動と女性が入れる環境づくりをされてはどうですか。

答 女性消防団員を一人迎えることとなりましたが、彼女に続く人があることを願って、環境を整えていきたいと思っています。

問 道の駅「京丹波 味夢の里」の用地買収も含めた総事業費はいくらですか。

答 総事業費は十八億二、五〇〇万円です。補助金を除いた約三億六、〇〇〇万円を町の税金などから支出しています。



■町長と語るつどい参加者数(表1)

	会場名	開催日	参加者数(人)
瑞穂地区	山村開発センターみずほ	6月18日	41
	小野公民館	6月19日	18
	梅田振興センター	6月22日	25
	鎌谷奥公民館	6月24日	24
	保井谷公民館	6月26日	19
	三ノ宮基幹集落センター	6月29日	17
丹波地区	質美振興センター	7月1日	23
	升谷公民館	7月3日	19
	大迫区公民館	7月6日	36
	細谷共同集会所	7月8日	26
	和知ふれあいセンター	7月13日	24
	わち農村環境改善センター	7月15日	20
和知地区	広野公民館	8月11日	20
	竹野地区基幹集落センター	7月21日	35
	健康管理センター	7月23日	37
	上野区住民センター	7月24日	33
	曾根公民館	7月27日	25
	塩田谷区公民館	7月29日	31
	豊田区集会所	7月30日	33
	富田公民館	8月4日	34
	下山集会所	8月7日	32
	清涼館	8月10日	15
合 計			587



有害鳥獣対策について

問 昨年、特別保護区の関係で話しましたが、重点的な対策をしてもらえるのですか。シカ以外にも最近はイノシシの被害も増えています。特に広域捕獲などの対策をしています。ただけませんか。

答 現在の状況では、米の価格が上がる要素は考えられませんが、新規就農者の育成やもうかる仕組みを充実させることにより後継者が育つものと考えています。また、新規就農者の育成制度も充実させています。



道路・河川・交通について

問 畑川ダムができたことによる利点は何ですか。
答 ダムが完成した平成二十五年は、渇水の年でしたが、ダムの貯えにより何とか節水の呼びかけをしなくても済みました。その後、今度は平成二十五年九月十五日に台風が襲来し、その時の雨量は平成十六年より多く、床下浸水などの被害も出たところですが、流量調節によるダムの効果で被害が最小限で済んだと思います。

問 道の駅「京丹波 味夢の里」がオープンしましたが、味夢の里から自然公園へ真っ直ぐにつながれば良いと思います。スマートインターチェンジはどうになりましたか。

答 スマートインターチェンジは設置いただけると確信しています。通行量の実績を見ていうことになると思います。

問 道の駅「京丹波 味夢の里」へ頻繁に町営バスが運行されていると聞きましたが、どのような運行になっていますか。また、その目的は、味夢の里へ客を呼び込むことですか。

答 七月十三日から丹波松山線、竹野線、高原下山線、丹波和知線が乗り入れしています。スクールバスは乗り入れていません。乗り入れの目的は、施設を利用する人の利便のためです。

問 昨年、瑞穂地域の特別保護区については、すべて解除となりました。広域捕獲については、他の近隣市町と協力し、年間四回を計画しています。猟友会でも各地域で実施していただいています。シカ、イノシシの被害が増えています。サルの被害も深刻化しています。サルに効果のある柵を設置するなど、新しい対策を進めて行く予定です。

問 サルの出没が増えています。イノシシやシカの対策は進んでいます。次はサル対策が必要です。何か方策はありませんか。

答 現状は、群れに発信機を付けて追い払うのが中心になっています。サルの対策は、少し時間がかかるかもしれませんが。色々相談してもらい身近なことに対応していきたいと思っています。

問 最近クマが出るがあるので、対策を考えてもらえますか。

答 クマの目撃情報が多くありますが、誤捕獲で捕まったものについては、学習放獣をしています。しかし、再び出没した場合は、捕殺することになります。クマの対策については、京都府にも要望していきます。

産業・観光振興について

問 企業誘致対策事業について説明してください。

答 若者の働く場として大きな課題であると考えています。企業の誘致に向けて、町有地の活用など、積極的に取り組んでいます。

問 高齢化が進んでいますが、後継者づくりにについてどのように考えていますか。



子育て支援について

問 幼稚園と保育所の方向性は怎么样了。すか。

答 町子ども・子育て審議会の答申を尊重し、すべての子どもたちに就学前の教育・保育を一体的に行えるよう、認定こども園への移行を検討しています。



まちづくりへの提言とアンケート結果

つどいでは、町政への質問や意見だけではなく、さまざまな視点からの京丹波町のまちづくりを見据えた提言、住み良い環境づくりを目指した要望をいただきましたので、その主なもの、アンケート集計結果をお知らせします。

なお、つどいの席上で持ち帰って検討する旨をお伝えした内容については、区長様を通じて個別に回答させていただきます。

要望・提言について

広大な土地を持つ須知高校に音楽科を誘致してはどうですか。府立高校には音楽科がなく、府内一円から生徒が来て活気が出ると思います。

(住宅などに)京丹波町産の木材を使用したときに費用を補助する制度を設けてはどうですか。

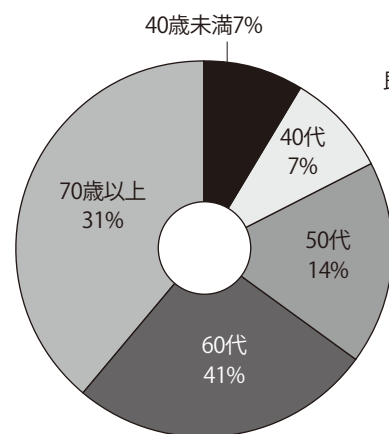
例えば、他市町と比べて水道料金が安いなどの特色を出すことにより、移住対策を含めた魅力あるまちづくりをしてはどうですか。

アンケート集計結果

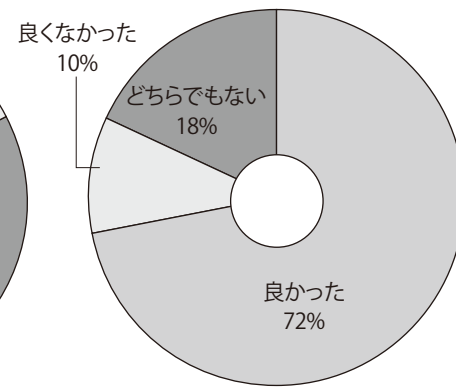
次回のつどい開催に向けた参考とするために実施したアンケートには、参加者587人中、452人の方に協力いただきました。アンケート項目は、「年齢」「感想」「資料や説明のわかりやすさ」などで、集計は次のグラフのとおりです。

なお、自由記入欄に書き込んでいただいた意見などは、より良い内容で実施できるように検討していきます。

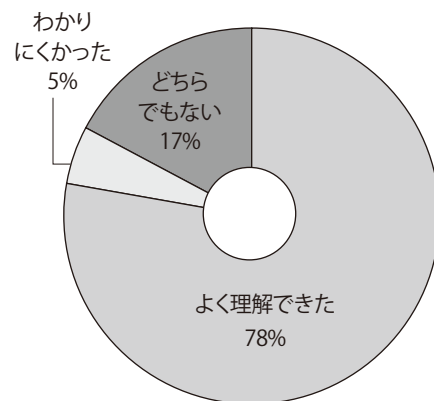
■年齢別参加者数



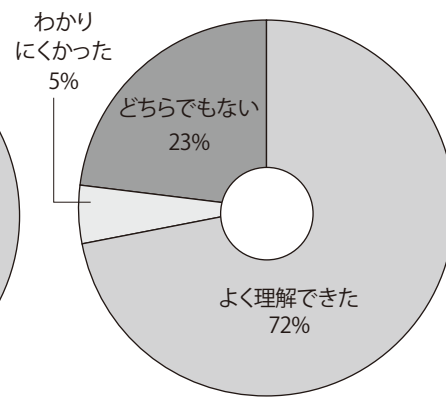
■参加した感想



■説明のわかりやすさ



■資料のわかりやすさ



教育振興について

問 須知高校生の減少について、何か原因はありますか。

答 昨年度の三中学校の卒業生数が百四十六人、うち須知高校へ五十五人が進学しました。高校もあらゆる専門科が設置されており、自分の将来を見定め各家庭で検討され選択されているところです。須知高校へ少しでも進学してもらえような対策にも取り組んでおり、中学生を対象とした須知高校での進路相談や実習体験活動など、積極的に取り組んでいます。現在の出生数が約七十人と今後さらに少子化が進んでいく厳しい状況ですが、少しでも須知高校の良さを伝えていきたいと考えています。

その他

問 昨年の職員の流用事件で、職員の信用がなくなっています。丹波マーケス支援の負担を住民に強いる時に、信用回復に向けて、どのような取り組みをされたのですか、また、されようとしているのですか。

答 二度と不祥事が発生しないよう万全の制度を作りました。丹波マーケスの支援に関しては、町民に実質的に負担をかけているとは思っていません。

問 トレーニングセンターの木材利用は一回限り、ストーブ燃料は微々たるものです。木材を利用した火力発電をしている所があり、利益も生んでいるし、雇用も生んでいます。検討してはどうですか。

答 少しずつ実施しています。府トレーニングセンターを参考に、個人の方も取り組んでもらえるよう例として話しました。間伐材



を利用した、熱利用供給システムに取り組む予定です。無駄のないよう、堅実に取り組んでいきたいと考えています。木を活用した独特のまちにしていきたいと思っています。

問 地域の活性化した状態とは、どういう状態のことと考えていますか。

答 町民の普段の生活力を上げていくことが、活性化につながると思っています。町内の団体の活動をしっかりと支えることも、活力につながっていると思います。また、不安を取り除くことが安心につながると思います。道づくりがまちづくりにつながり、里山を守り、木や山を活用した取り組みを進めていくことが、活性化・活力につながっていくと考えています。林道を整備していくことも産業につながると考えています。

問 空き家バンクについて、町としてはどういうことをされていますか。また、どういうことが必要と考えていますか。

答 問い合わせなどがあれば、仲介をしています。近隣では、銀行と提携して商品として売り出し、空き家解消に取り組まれています。参考に取り組んでいきたいと考えています。また、民間のノウハウを取り入れながら、空き家対策に取り組んでいきたいと考えています。



バター作りを体験する子どもたち

須知高校会場



生徒と一緒に収穫を体験する親子



農場の動物とふれあう子どもたち



ウィードの森を案内する生徒



観光プランを発表する生徒

豊かな食を生み出す京丹波町。この「食の郷」で、実りの秋の恒例イベントとなった「京丹波 食の祭典」を、丹波自然運動公園と須知高等学校の二会場で開催しました。祭典には、食欲の秋を堪能しようと、これまでで最高となる延べ二万四千八百人が訪れました。

食の祭典 2015

本年度から学校全体の取り組み「須高感謝祭」として開催された須知高校会場。会場内では、生徒たちが主体となり、恒例の石窯ビザや須高鍋、農産物や花苗の販売、農場での収穫体験のほか、竹の粉末から作る竹茶の試飲、吹奏楽部のミニコンサートのほか、京都丹波観光プランコンテスト入賞作品の発表、生徒が案内役を務める学校林「ウィードの森」のツアーなどが行われました。

会場内では、開会早々から各ブースに来場者が殺到。完売するブースが続出しました。

テーマは「食べ歩きフード」

町内の食材を使い、「食の京丹波」の魅力をさらに磨き上げることを目的に町と須知高校が連携して実施しているあったらいいこんな食べものアイデアコンテスト（食ベコン）。今年度のコンテストには、町内外から218点の応募がありました。

このコンテストの表彰式を食の祭典の自然公園会場で実施。最優秀賞に輝いた飛田愛子さん（京都市）などを表彰しました。

入賞者は次のとおり。（順不同。敬称略）

【最優秀賞】

KYOTANバスターネ／飛田愛子

【優秀賞】

丹波の味覚スムージー／井上倅希

丹波のプチパイ／小森智子

シュー栗一ム／大塚衣織

【特別賞】

栗とお豆のぎっしりパンと

丹波ラスク／磯田容子



最優秀賞を受賞し、表彰状を受け取る飛田さん

食の郷がにぎわう 京丹波



多くの人でにぎわう屋台グランプリ会場

丹波自然運動公園会場



京丹波の食を満喫する人たち

式典の開会セレモニーなどが行われた自然運動公園会場では、京丹波の食材を使う「屋台グランプリ」のほか、ステージでは、ミニライブや町の食のキャラクター「京丹波味夢くん」をはじめとしたご当地キャラクターによるショーなどが行われ、会場を盛り上げました。



ぐずる子どもも京丹波の食が大好き

十八作品が頂点を目指した屋台グランプリは、町観光協会岩田恵一会長によるカウントダウンの合い図でスタート。早速多くのブースで長蛇の列ができるほど盛況を博しました。
また、本町と友好交流協定を結ぶ北海道下川町からは、世界で活躍するチエーンソーアーティスト木霊光さんが来町。前日から会場で創作し、町へ寄贈いただいた作品「千古の記憶」のほか、数種類のチエーンソーなどを使って、会場内でフクロウなどの作品を作り上げました。会場を訪れた多くの人たちが、木霊さんの巧みなチエーンソーさばきに見入っていました。
なお、屋台グランプリの結果は、次のとおり。



来場者が見守る中、創作する木霊さん

■屋台グランプリ

グランプリ

濃厚ゆばぶっかけ豆腐
東山とうふ西初（京都市）



グランプリを受賞した濃厚ゆばぶっかけ豆腐

進グランプリ

Suntaコス森の
デミグラスソース仕立て
サンダイコー（株）マーケス店（須知）
九条ネギソースの
丹波どりチキンカツ
kainokikainoki（市場）
焼カレー
紀陽軒（須知）



グランプリ入賞者の皆さん

京丹波に 「冬ほたる」が舞う

冬の京丹波の風物詩「冬ほたる」。例年、町内外から多くの人が、名勝「琴滝」に舞い降りる「冬ほたる」の輝きを楽しみに訪れています。
この琴滝のイルミネーション「冬ほたる」が今年、最後のときを迎えます。

「冬ほたる」十年のあゆみ

イルミネーションイベント「冬ほたる」は、NPO法人丹波みらい研究会（岩崎栄喜雄理事長が、平成十七年に当時府内最大級となる五万四千球のLED電球を使ってスタート。同会内に実行委員会を設けて毎年開催し、平成二十五年の第九回は、八十万球のイルミネーションイベントにまで育て上げました。

この間、会場となった琴滝には、一回の開催で最高三万人が来場。二帯を照らす「冬ほたる」の光景を楽しみました。
しかし、昨年十回目を迎えるはずであった「冬ほたる」は、会場周辺の交通事情などから開催を断念。今年、十回目の節目とともに最後の年を迎えることとなりました。

人と人をつなぐ光

十周年を迎える「冬ほたる」。この間、冬ほたるの「光」は、多くの人にさまざまな出会いをもたらしました。
第七回（平成二十三年）には、観光PRと出会いサポートを目的として「冬ほたるdeときめきツアー」を開催。イルミネーションの準備作業を通して、交流を深めました。

また、「冬ほたる」の取り組みにボランティアとして参加したことをきっかけに二組が結婚され、第八回（平成二十四年）で披露。会場を訪れた人たちに祝福されました。

九回のイベントでは、この人たちだけでなく、多くの人たちの出会いを生み、それぞれの歩む道のターニングポイントになったのではないのでしょうか。



準備作業に参加するときめきツアー参加者



冬ほたるが縁で結ばれた二人

冬ほたる2015

点灯期間 12月11日（金）～24日（木）

点灯時間 午後5時～10時

入場料 500円（中学生以下無料）

※12月23日（水）は午後6時と8時からライブイベントを開催。
※期間中、毎日午後5時から点灯式を行います。（土日祝日除く）
※会場内では、にしんそば、ぜんざい、コーヒーなどを販売予定。

記憶に残るイベントに

多くの人にさまざまな思い出を残してきた「冬ほたる」。十回目であり、最後の「冬ほたる」を中心となつて進めるのは、冬ほたる二〇一五実行委員会の委員長を務める上田宗弘さん（和名）。上田さんは、第三回からこの取り組みに参加しています。



LED電球を設置する丹波みらい研究会のメンバー

「昨年は、開催を見送ったことで『今年はしないのか』ということをよく聞きました。期待されているイベントに成長したのだと実感しました」という上田さん。「来場者の記憶に残るイベントにしようと十回を節目として取り組まれてきたイベント。多くの人が楽しみにしてくれているものなので、やり遂げたいと思っています」とイベントにかける思いを話していました。

同研究会では、九月十三日に会場となる琴滝公園の清掃後、LED電球の設置を進めています。今年の「冬ほたる」は、七〇万球のLED電球



冬ほたるへの思いを話す上田さん

を使い、規模重視ではなく、これまでの経験をもとにデザイン性のあるものにとしたいと実行委員会では考えています。
「琴滝」という自然をそのままに生かした「冬ほたる」。今年の冬は、自然とイルミネーションの共演が織り成す癒しの空間を感じてください。

いきいき健康術 第98回

『閉塞性動脈硬化症』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は、国保京丹波町病院の内科医師角谷慶人先生。生活習慣病の影響で増加傾向にある閉塞性動脈硬化症に関するお話です。

「最近、しばらく歩くと足がだるくて歩けなくなる。でも、しばらく休むとまた歩けるようになる」

こんな症状の方はいらつしやいませんか。これは「間欠性跛行」と呼ばれる症状で、足の血管が狭くなったり詰まったりして起こる『閉塞性動脈硬化症』の特徴的な症状です(注)。

この病気はその名の通り、血管の動脈硬化によって生じますが、近年、社会の高齢化と生活習慣病の増加に伴って増加しています。初期には足の冷感やしびれ感のみですが、進行すると前述の「間欠性跛行」が出現します。さらに放置すると安静時にも足が痛くなり、さらには、小さな足の傷が治らず重症化してしまう事態にもなりかねません。

幸い、この病気は比較的簡単に検査・診断することが出来ます。足の血管の触診に加えて、「ABI検査」と呼ばれる、両手足の血圧を測定する検査を行うことが第一歩となります。治療については、運動療法や薬物療法に加えて、体への負担が少ないカテーテルによる血管内治療が広く行われています。

もし、「間欠性跛行」の症状があるようなら、一度はABI検査を受けることをお勧めします。

また、閉塞性動脈硬化症について気になる方は当院までご相談ください。



内科医師
角谷 慶人 先生(京丹波町病院)

(注)神経が圧迫されて起こる『脊柱管狭窄症』でも同様の症状が生じるため、ABI検査によって鑑別することが大切です。

お知らせ

京丹波町病院では、毎週水・木曜日の午後一時から三時まで小児科の予防接種を行っています。

☎86-0220

安全で快適な交通社会へ

交通安全ポスターコンクール表彰式

南丹船井交通安全協会京丹波支部(上田次雄支部長)主催の交通安全ポスターコンクルールの表彰式が、九月二十七日、和知ふれあいセンターで行われました。

町内の小・中学生を対象に行われたコンクールには、三百八十一名の応募があり、特選三点、優秀賞八点、佳作二十四点が入選しました。

なお、受賞者は次のとおりです。

(敬称略、特選のみ)

【特選】

京丹波町長賞

原澤璃久(竹野小)

南丹警察署長賞

高橋怜奈(瑞穂中)

南丹船井交通安全協会会長賞

竹口菜々瀬(蒲生野中)



特選に選ばれた(右から)原澤君、高橋さん、竹口さん(和知ふれあいセンター・本庄)

交通事故撲滅を目指す

南丹船井交通安全大会

南丹船井交通安全協会と京都府南丹警察署主催の南丹船井交通安全大会が、十月三日、道の駅「京丹波 味夢の里」で行われました。

大会では、交通安全功労者などに対する表彰と伝達のほか、生きが「デイサービス」こだまの里」利用者とは本庄区老人クラブ「庄寿会」会員による交通安全宣言が行われました。

表彰者などは次のとおり(敬称略、本町分のみ)

交通安全功労者

個人の部

吉田 昭(本庄)

団体の部

まごころサービスあい・愛(角)

近畿管区功労者

上田次雄(妙楽寺)

緑十字功労者

加藤久和(井脇)

山内博子(坂井)

岡本富士夫(蒲生)



表彰状を受け取る受賞者(道の駅「京丹波 味夢の里」・曾根)

丹波くりでにぎわう

京都丹波くりまつり

京都丹波くりまつり(京都丹波くりまつり実行委員会主催)が、十月三日、道の駅「丹波マーケス」で開催されました。

このイベントは、丹波地域の特産品として全国的に知られる「丹波くり」の振興を目的に毎年開催されているもの。会場では、くりの即売をはじめ、くりごはんやくりもち、焼きくりとともに、須知高校食品科学科の生徒による丹波くりはちみつソフトクリームが販売され、訪れた人たちが列を作つて買い求めています。

くりごはんや焼きくりを購入したという古居昌夫さん(京都市)は「毎年来ています。こういうイベントが行われるのは良いことです。ね」と、家族とともに丹波の秋の味覚を堪能していました。



くりもちのできあがりを待つ来場者(道の駅「丹波マーケス」・須知)

楽しいひとときを過ごす

■わちふれあい祭り

道の駅「和」で十月十七日、わちふれあい祭り(同実行委員会主催)が行われました。

このイベントは、旧和知町でわち大好きまつりとして始まり、平成十八年から同道の駅に会場を移し、わちふれあい祭りに名称を変更して現在まで開催しています。

イベントでは、秋の味覚「くり」

を使ったりもちやくりごはんをはじめ、たくさんのお食べ物や売られたほか、手づくり手芸作品や日用品などのフリーマーケットも開催。地域住民をはじめ多くの人でにぎわいました。

また、会場となった道の駅「和」では、わちふれあい朝市の会(梅原主会長)により和知黒枝豆市も行われ、地域の特産品を買い求める人が列を作っていました。



来場者でにぎわう会場(道の駅「和」・坂原)

体験して学ぶ

■筋トレ・脳トレ教室

サポーター養成講座

地域の公民館などで行う介護予防教室「筋トレ・脳トレ教室」のサポーターの養成講座を十月二十二日、町中央公民館で開催しました。

この講座には、冬場に閉じこもりがちの高齢者を対象として、筋力の維持・向上を目的とした「筋トレ」と認知症などを予防する「脳トレ」の指導役(サポーター)

となる人たちが参加。講師のNPO法人元氣アップAGEプロジェクト理事長の横山慶一さん指導のもと、音楽に合わせて体を動かす「元氣アップ音楽体操」やゴムを使った筋力トレーニングの方法などを体験しました。

この筋トレ・脳トレ教室は、十一月から各地域で始まり、二月末まで行われる予定です。



映像を見ながら音楽に合わせて体操する参加者(町中央公民館・蒲生)

地域の玄関口を清掃

■ボランティア・ロード丹波

今年度三回目となるボランティア・ロード丹波が、十月十八日、京丹波町役場前から京都縦貫自動車道丹波インター入り口までの国道九号で行われました。

この活動は、町民が主体となり、町や道路管理者である国土交通省が支援して行っているものです。

清掃活動には、町民など九十人が参加。国道沿いの植樹帯の草引きやゴミ拾いを行いました。

参加者らは、和やかに会話を交わしながら作業に取り組みました。



植樹帯の草引きをする参加者(須知)

犯罪のないまちへ

■京丹波安全・安心まちづくり協議会

町と南丹警察署は、町民が安全・安心を実感できるまちづくりを目指して、十月十九日に役場議場で京丹波安全・安心まちづくり協議会設置にかかる協定の締結式と第一回会合を開催しました。

締結式では、寺尾豊爾町長と南丹警察署の角野和弘署長が協議会設置に向け協定書に署名しました。

今回、協議会設置を提案した南丹警察署の角野署長は「警察と町が情報共有し、トップダウンで対応することが重要。懸案事項に対

して、よりタイムリーな情報提供をしていきたい」と、協議会設置の意義を話していました。

また、この日は、締結式に先立って、防犯推進委員らも参加して青色防犯パトロール一斉出発式を開催。日ごろの活動に対する功労者の表彰が行われた後、防犯推進委員が運転する青色回転灯を装備した車が、町内のパトロールを発しました。

出発式での表彰者は次のとおりです。(敬称略)

【全国防犯協会連合会会長表彰】

防犯栄誉銅章

大田喜好(大迫)



協定書に署名した寺尾町長と角野署長(役場議場・蒲生)

【京都府警察本部長・京都府防犯協会連合会会長表彰】
地域安全功労者表彰
梅原士朗(大倉)
前田昌成(八田)

町への思いを形に

■二宮金次郎像除幕式

本町出身の片山山治さん(神戸市)からこのほど、二宮金次郎像の寄贈を受け、十月十日、道の駅「京丹波 味夢の里」で除幕式を行いました。

除幕式では、片山さんが「自分も合併十周年と味夢の里の開業を祝いたい」と思って二宮金次郎

像の設置を願い出ました。この像が、ここを訪れる人たちに温かく見守ってもらえれば」と像に対する思いを述べ、寺尾豊爾町長に対し目録を贈呈。二人で除幕を行いました。

また、片山さんからは、ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)として高額の寄附を継続していただいていることから、町合併十周年



像の除幕を行った寺尾町長と片山さん(道の駅「京丹波 味夢の里」・曽根)

記念式典で善行者として表彰しました。

わたしたちの町

人口
15,286(−19)
男
7,233(−5)
女
8,053(−14)
世帯数
6,385(−5)
11月1日現在()は前月比

義援金などの受付状況

東日本大震災への支援として取り組んでいる「義援金」と、友好町・福島県双葉町への「復興支援募金」の受付状況をお知らせします。

受付金額	
義援金	9,511,474円
復興支援募金	6,641,495円

*平成27年10月31日現在

「ご寄附ありがとうございました」
ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)を、次の方からいただきました。ありがとうございます。(掲載内容は、寄附者の申し出にもとづいたもの)

小林 元紀さん	一万円
服部 武志さん	一万円
吉川 幸一さん	一万円
片山 山治さん	十万円
本村 史子さん	一万円
大谷 豊さん	一万円
伊藤 高夫さん	一万円
高取 亮太さん	三万円

戦 争のない社会を誓う

■戦没者追悼式

町戦没者追悼式を十月二十七日、和知ふれあいセンターで開催。太平洋戦争などで亡くなられた本町出身の千七十七柱の遺族など約二百三十人が参列し、戦没者を追悼しました。

式では、追悼の辞として、京丹波町遺族会を代表し、和知遺族会の堀郁太郎会長（本庄）が「今、わ

たしたちが享受している平和と繁栄は、諸英霊の尊い犠牲の上に築かれていることを決して忘れていません。身を持って体験した悲しみや苦しみを思うからこそ、全ての人々にとって平和で豊かな世界になるよう、恒久平和を誓います」と述べた後、参列者一人ひとりが、会場に設けられた追悼の碑に献花しました。



追悼の碑に献花する参列者（和知ふれあいセンター・本庄）

秋 晴れのもと稲刈り

■あっぱれたんぼ稲刈りイベント

イネを使ってカエルなどを描く田んぼアート「あっぱれたんぼ」の稲刈りイベントが十月四日、丹波自然運動公園近くの田んぼで行われました。百七十五人の参加者は、地元住民やスタッフなどに刈り方を教えてもらいながら、稲刈りに汗を流しました。

今回のあっぱれたんぼでは、キヌヒカリや古代米など六種類のイネを使い、「森の京都」と書かれた気球に乗る二匹のカエルが描かれました。参加者らは、イネの種類ごと



見事に描かれたあっぱれたんぼ（曾根）

に刈り取っていききました。昨年の稲刈りイベント、今年の田植えイベントに続いて参加したという増井雄大君（京都市）は「楽



古代米のイネを刈り取る参加者（曾根）

しい。もつとやりたいです」と、普段経験できない農作業を楽しんでいました。

京丹波町のシンボル

【町の鳥】
うぐいす



【町の木】
イチヨウ



【町の花】
つつじ



編集後記

周囲を見回すと紅葉がきれいな季節になりました。皆さんはスポーツに文化、食、芸術とどのような「秋」をお過ごしでしょうか。

立冬を過ぎ、暦の上では「冬」。師走もすぐそこです。気忙しい時期になりますが、まちの様子を伝えるため、こつこつと着実に取材に取り組みたいと思います。（T）